

令和 4 年度 宮の原中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

- 基本目標 『未来を拓く日本人を育てる』
- 具体目標（目指す生徒像） ・創造性に富む人 ・心豊かな人 ・最善を尽くす人
- 校 訓 自主創造

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

☆テーマ 『豊かな心をもって、自律・実践する生徒の育成』 ― 希望・創造・感動 の校風をめざして ―

今、日本の社会は、大きな変化の時代を迎え、多くの若者にとって、夢を抱きにくい社会になったともいわれている。しかし、社会がどのように変化しようと、人がその社会を生きていく厳しさは今でも変わらない。まして、生徒や家庭を取り巻く状況は現在、日ごとにその厳しさを増していると同時に、教育現場への要求は限りなく、私たちの眼前に掲げられている。

だからこそ、その社会を生きていく生徒たちは、困難や試練に負けずに生き抜いていく強さとたくましさ、そしてしなやかさをもつこと、人への思いやりや感謝する心、感動する心などを育てていくことが重要である。

そのためには、中学生という多感な時代に「希望・創造・感動」の世界を広げてやるのが本校では必要であると考え。希望は未来を創造し変えていく力、創造は生きる意欲と知恵、感動にはやる気を起こさせ、社会に生きて働く力や自己肯定感、生きる優しさを育む力がある。そのような校風をつくることによって、自律（自分で立てた規則に従って、自分のことは自分でやっていく力）・実践（粘り強く取り組み、それまでなかったものを作り出す力）する力が生徒一人一人に身に付くものと考え。よって、その育成のために、全職員が生徒と正面から向き合って、生徒の一人一人の「よさ」を認め、ほめて伸ばす教育活動を実践していく。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) ○生徒の「生きる力」を育成するために個に応じた教育を進め、地域に根ざした活動を展開し、豊かな心、確かな学力、健康や体力の育成に努めます。
- (2) 教育目標の具現化をめざし、全教職員が意欲と使命感を持って学校経営に参画し、生徒や保護者等の信頼や期待に応える学校づくりに努めます。

[宮の原地域学校園教育ビジョン] 心豊かで 輝く子どもの育成

4 教育課程編成の方針

- (1) 自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を目指し、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成を重視した指導を徹底し、個性を生かす教育の充実を図るとともに、生涯教育の基盤を培うことをねらって教育課程を編成する。
- (2) あらゆる教育活動の中で、また、学校・家庭・地域社会が一体となり、「学びあい、喜びあい、励ましあう」活動内容及び場を設定し、生徒と教師、生徒同士及び地域の人々との交流を深めながら、お互いのよさを認め合い、信頼し合い、豊かな人間関係の構築を図り、特色ある学校づくりを目指した教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
 - ・豊かな心をもって、自律・実践する生徒の育成 ― 希望・創造・感動の校風をめざして―
- (2) 学習指導
 - ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 ―○発問・学習活動の工夫―
- (3) 児童生徒指導
 - ・心を育む教育活動の推進 ―あいさつ・いじめ対策・生活のきまり―
- (4) 健康（体力・保健・食育・安全）
 - ・自分の健康や体力の向上・安全に高い関心を持つ生徒の育成
 - ―教科体育・学校行事の充実と健康や安全意識の高揚―

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指 す 生 徒 の 姿	A 1 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上	①○わかりやすい授業を目指し、『宇都宮モデル』を踏まえて、どの授業でも、「課題提示」と「振り返り」の習慣化、生徒のコミュニケーション能力を高める授業展開の工夫を行う。		【達成状況】 【次年度の方針】
	A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上	① 通常の学校生活や学校行事など、様々な機会を捉えて、思いやりの心の大切さを指導していく。 ②道徳の授業では、指導内容項目「B-(6)思いやり、感謝」の指導に重点をおいて、生徒の心に響く授業展開を工夫する。		【達成状況】 【次年度の方針】
	A 3 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上	① ○同一步調で組織的に生徒指導を進める。生徒の規範意識を高めるとともに、リーダーを育成し、自立的な生活態度を育てる。 ② 計画的な巡回指導、生徒一人一人に目を向けた細やかな指導を通して、問題の早期発見・早期解決・再発防止に努めるとともに、家庭と連携しながら長期的な視野で生徒の変容を支援する指導体制作りを進める。		【達成状況】 【次年度の方針】
	A 4 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上	① ○日常の教育活動全般を通して、相互の人格を尊重し合う態度を育てるとともに、定期的実施している生徒会によるあいさつ運動や、教職員からの積極的な声掛け等により実践力をつける。		【達成状況】 【次年度の方針】
	A 5 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。（A 7 共通） 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	① 「宮・未来キャリア・パスポート」の活用。小学校と連携した「キャリア教育における基礎的・汎用的能力」の実態把握アンケートの実施など、継続的なキャリア教育を行い、生徒が主体的に将来の目標に向かって諦めずに粘り強く学習や運動などに励み続けることの大切さを指導していく。 ② ○進路指導主事を中心に、3学年はもとより1、2学年の保護者会等においても生徒及び保護者に進路講話を行う。		【達成状況】 【次年度の方針】

A 6 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上	① 生徒会保健体育委員会や生活安全委員会を中心に、健康体力の向上や感染症を含む病気やけがの予防、登下校時や校内での安全な生活について啓発していく。 ② 保健体育科の授業や、養護教諭や生徒指導主事、交通安全係からの安全指導等として、知識を深めさせる。	【達成状況】 【次年度の方針】
A 7 生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できよう努力している。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上	① 道徳の授業において、特に指導内容項目「C－(12)社会参画、公共の精神」、「C－(13)勤労」に力を入れると共に、常日頃より「夢や目標をもって、社会に貢献していく」ことの大切さを指導していく。 ② キャリア教育の一環である2学年で行う社会体験学習（宮っ子チャレンジ）において、事前・事後指導も含めた充実させ、社会に貢献できることの素晴らしさや夢や目標を持つことの大切さを学ばせる。	【達成状況】 【次年度の方針】
A 8 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	①〇小学校の「外国語活動」や「外国語」の指導内容の理解に努め、小中一貫教育・地域学校園の教科部会において連携を図りつつ、中学校の「外国語」の授業においてできる限り英語でコミュニケーションをとれるように指導していく。 ②ALTにはできるだけ生徒との交流を持ってもらい、授業中のみならず、休み時間等の雑談等でも英語でコミュニケーションをとるよう促していく。	【達成状況】 【次年度の方針】
A 9 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上	①〇小中一貫教育・地域学校園の教科部会において連携を図りつつ、社会科や道徳科、総合的な学習の時間に位置付けた「宇都宮学」を行い、「宇都宮の良さ」を自発的な学習を多く取り入れながら指導していく。 ② 道徳の授業において、特に指導内容項目「C－(16)郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する心」の授業を充実させていく。	【達成状況】 【次年度の方針】

A10 生徒は、I C T機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上	① 各教室の大型テレビにデジタル教科書等を映し出したり、1人1台端末を活用したりするなど、I C T機器を積極的に活用していく。 ② ○小中一貫教育・地域学校園として小学校低学年のうちからI C T教育に力を入れ、パソコン等の情報機器の活用に慣れ親しませていく。また、指導する教職員の研修はICT支援員を有効活用し計画的に行う。また、調べ学習以外の図書室の利用方法を周知し、積極的な活用を促す。	【達成状況】 【次年度の方針】
A11 生徒は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	① 道徳の授業における指導内容項目「B-(6)思いやり、感謝」、「B-(14)家族愛、家庭生活の充実」の指導を充実させていく。 ② 体育祭における「高齢者招待（歓迎の言葉）」等の機会を捉え、常日頃より高齢者に対する感謝やいたわりの心を持つように指導していく。 ③○小学校に加えて、家庭、地域とも協力し合い、幼い頃から高齢者への感謝の気持ちを育てるような啓発活動を行う。	【達成状況】 【次年度の方針】
A12 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上	① SDGs等については、社会科や理科、技術・家庭科、道徳科、総合的な学習の時間等を中心に、教科等横断的な視点で各教科等の関連付けを図りながら教育課程を編成し、問題解決的な学習を充実させる。 ② 生徒会執行部による「届けよう、服のチカラ」プロジェクトへの参加や、生徒会福祉委員会による「ペットボトルキャップの回収」や「ベルマーク」収集に力を入れ、活動の中で自然と「持続可能な社会」に対する関心が高まるように支援していく。	【達成状況】 【次年度の方針】
B2 生徒は、学級での活動、生徒会活動、学校行事に自主的に取り組み、自分の役割や責任を果たそうとしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上	① 生徒会活動はもとより、学級活動や学校行事等を教職員の支援のもとで生徒が自主的、自発的に活動できるように計画し、実践していく。諸活動を行っていく中で、生徒の自主性や責任感等を養っていく。	【達成状況】 【次年度の方針】

	B 3 生徒は、健康を大切に、各種検診等で指摘された場合は医療機関で受診している。 【数値指標】 教職員の肯定的回答が90%以上	① 生徒会保健体育委員会の活動や保健体育科の授業を通して「健康の大切さ」について考えさせ、指導していく。 ② 養護教諭を中心に、「保健だより」等において「健康体力の向上」に役立つような記事を多く載せ、啓発していく。 ③ 各種検診で受診を求められた生徒に対して、保護者への通知や電話連絡等で受診を勧めていく。	
	B 4 生徒は、授業で分からないことについて、先生に質問している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答が85%以上	① 「主体的・対話的で深い学び」の実現には、授業等で分からないことについて先生に質問するなど主体的に学ぶことが大切である。個に応じたきめ細かな対応や、適切な質と量の家庭学習課題の定期的な提示やその確認に努める。 ② 教職員が今年度から完全実施される新学習指導要領を理解し、授業力の向上を目指した研鑽と修養に励み、分かりやすい授業の実践を通して生徒との信頼関係を築くことにより、生徒が先生に質問しやすい雰囲気を作り出していく。	
目指す学校の姿	A13 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答90%以上	① 週1回の教育相談部会を充実させ、特別な支援を必要とする生徒の実態を共通理解していくと共に、具体的な支援策を立て、全職員に周知し、実践していく。支援策の検討に当たっては、SCやMSの指導、助言を十分に生かして実施していく。 ② 校内支援の推進と充実のために、市教育センターなどの専門機関による相談機関や医療機関等との積極的な連携を図り助言を得る	【達成状況】 【次年度の方針】
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 生徒・教職員の肯定的回答90%以上	① 〇全教職員が「いじめはどの生徒にも起こりうる」との認識のもと、生徒の授業中の様子や、休み時間・給食時等の様子をよく観察し、些細な変化や、周囲の好ましくない雰囲気等を敏感に察知するよう心掛ける。 ② いじめの未然防止に向けて、年に4回行う早期発見のためのアンケートや、生徒会生活安全委員会が行ういじめ根絶集会等の様子をHPや学校・学年だより等を通して保護者や地域に発信していく。	【達成状況】 【次年度の方針】

A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 生徒・教職員の肯定的回答 90%以上	① 全ての生徒にとって居がいのある温かい雰囲気学の級経営に努める。 ② 〇小中一貫教育・地域学校園として小学校低学年のうちから不登校の傾向の見られる児童に対する適切な支援を小中が連携して検討、実施していく。 ③ 不登校傾向の表れてきた生徒に対しては、家庭と密に連携を取りながら、早期に週1回の教育相談部会で状況報告や支援策の検討を行い、全職員の共通理解の基で組織的に支援を進めていく。	【達成状況】 【次年度の方針】
A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上	① 外国人生徒の実態に応じて、週1回の教育相談部会で状況の報告、支援策の検討を行い、全職員の共通理解の基で適切な支援、合理的な配慮を行っていく。 ② 週に1時間は、該当生徒に対して市教委の指定した日本語指導講師による指導を行う。 ③ 学級、学年を中心に、該当生徒を温かい雰囲気て迎え入れることのできる環境を整える。	【達成状況】 【次年度の方針】
A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上	① 学級での係活動、生徒会活動、部活動等で、生徒の自主的な活動意欲を高め、責任感や向上心を育てる。 ② 校訓「自主創造」を学校行事や生徒会行事の企画運営に生かすために、リーダー育成に力を入れ、生徒の自主的・主体的活動を積極的に取り入れながら、明るく活気のある教育環境の充実に努める。	【達成状況】 【次年度の方針】
A18 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上	① 「主体的・対話的で深い学び」の実現と分かる授業の展開を目指す。そのために総合訪問等の研究授業や授業研究会を通して授業力向上に努める。 ② 少人数・習熟度別学習、T・Tによる授業の内容・方法等の研究、全校体制で取り組む特別支援教育の充実等を通して、個に応じた学習の推進を図る。 ② 1人1台端末の活用や評価方法の研究に積極的に取り組む。	【達成状況】 【次年度の方針】
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答が 90%以上	① 学校長を中心とした「チーム学校」の考え方の基で、教職員が保護者や地域の力を借りながら、生徒のために一致団結して教育活動を行っていく。 ③ 週1回の校務運営委員会において、行事や校務の改善点について提案し、予め具体策を検討しておくことで、効率的に職員の共通理解を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】

A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答が80%以上	①全職員の健康を守るためにも、出退勤時刻の把握を管理職が徹底し、ICTの活用や削るべき仕事は思い切って削っていくなど、業務の効率化を図る具体策を講じていく。 ③ スクールサポートスタッフやICT支援員など専門スタッフと連携し、教職員の負担軽減に取り組む。 ④ 個人的に時間外勤務が多い職員に対しては、個別に面談を行い、業務を効率化していくための指導・助言を行う	【達成状況】 【次年度の方針】
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】教職員の肯定的回答85%以上	① ○小中一貫教育を推進するために、地域学校園各小学校との情報交換や連携の推進に努める。 ② 「小中一貫教育・地域学校園」の取組内容について理解してもらうため、学校HPなどに活動の様子を掲載・更新に努め、各種たより等を発行することによって啓発と更なる協力を求めている。	【達成状況】 【次年度の方針】
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 教職員の肯定的回答85%以上	① 1学年においては、「総合的な学習の時間」における「農業体験」や「職業人に学ぶ」の授業等を通して、地域の方々の教育力の活用と特色ある教育活動を展開していく。 ② 2学年においては、「社会体験学習（宮っ子チャレンジ）」を通して、地域の企業等と連携しながら、キャリア教育をすすめ、特色ある教育活動を展開していく。 ③ 3学年においては、「保育体験」の授業等をより充実させ、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開していく。	【達成状況】 【次年度の方針】
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答85%以上	① 宮の原中学校地域協議会の提言等を取り入れた教育活動の推進、地域の行事等への生徒の参加を通して、家庭や地域、企業等と連携を図った生徒の健全育成に努める。 ② 諸活動や取組内容について、学校HPなどに活動の様子を掲載する。最新の情報に更新したり、毎月各種たより等を発行したりすることによって啓発を行い、さらなる協力を求めている。	【達成状況】 【次年度の方針】

本校の特色・課題等	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答が90%以上	① 施設・設備面（ハード面）としては、校舎や体育館入口へのスロープ、階段の手すりや足下の滑り止め、エレベーター、多目的トイレの設置などを公的機関と連携して行っている。 ② 生徒指導面（ソフト面）としては、落ち着いた態度で生活できるよう、生徒主体で学校生活のルール作りを行う。また、安全に十分に配慮した部活動の実施を徹底していく。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A25 学校は、学習に必要なＩＣＴ機器や図書等を整えている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答が85%以上	① 全教科で１人１台端末を積極的に活用し、これまでの調べ学習や発表のためのパワーポイントの資料作りなどのほか、どのような活用法があるか実践例の収集を行う。 ② 校内ネットワーク環境と１人１台端末が整備に伴い、校内だけでなく家庭へ持ち帰っての活用についても充実させる。 ③ 毎朝、読書の時間を10分間設けるとともに、図書室の開放、図書室からの回覧文庫、学級文庫などを有効に活用させ、読書の習慣化を図り、豊かな心を育てていく。	【達成状況】 【次年度の方針】
	B1 教職員は、自己の役割と責任を自覚しながら、連携と協力を通して、明るく活気ある職場作りに努めている。 【数値目標】 教職員の肯定的回答が90%以上	① 職員会議、校務運営委員会、学年会、時間割に位置づけた生徒指導部会や教育相談部会等を通して、職員間の共通理解を深め、協力・連携に基づいて協働で職務の遂行にあたる体制づくりに努める。 ② 一人一人が意識して「明るく活気ある職場作り」に努めるとともに、「報・連・相」がスムーズに行える「風通しのよい職場」を作り出していく。	【達成状況】 【次年度の方針】
	B5 教職員は道徳教育の推進を通して、生徒と教師の相互理解に基づく温かい人間関係づくり、心豊かな生徒の育成に努めている。 【数値指標】 教職員と生徒の肯定的回答90%以上	① 学年体制で取り組む道徳研究授業と校内研修（特に評価の方法）、全時間分の資料と展開例の整備と活用等を通して、教職員一人一人の指導力向上に努める。 ② 道徳の授業と日常の教育活動の関連を図った指導を通して、生徒の道徳性を育むとともに、学校生活の向上や生き方の探求に努めようとする態度を育てる。 ③ 保護者に本校での取組を知ってもらうために、学校HPを利用した情報発信をするとともに、授業参観や学校公開で道徳の授業を参観できる機会を検討する。	【達成状況】 【次年度の方針】

総合的な評価]

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

7 学校関係者評価

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。